

科 目	普通科・理数科後期選択
名	発展倫理
	3年・2単位
目 標	青年期における自己形成の課題についての理解と思索を深め、人間としてのあり方、生き方について考える。 先哲の思想を学ぶことを通して、現代における諸課題を自己の生き方や社会との関わりの中で主体的に考えることができる。
位 置	3年で学ぶ倫理の内容を発展的に学ぶ。
づ け	

■使用する教材

- ・教科書 高等学校新倫理改訂版（清水書院）
- ・問題集 完全 MASTER 倫理問題集（清水書院）
- ・参考書 テオリア最新倫理資料集（第一学習社）
- ・過去の模擬試験問題
- ・自作プリント ほか

■学習する単元とおおよその時期

- ・現代を生きる自己の諸課題【4月】
- ・人間としての自覚と生き方【5～7月】
- ・現代社会と倫理【8～9月】
- ・国際社会に生きる日本人の自覚【10～12月】

■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法

人間は「善く生きる」ためには、善い生き方とは何かを考える必要があります。その手がかりとして先哲（哲学者や宗教家）の思想を学びますが、大事なことはそれを単なる知識として覚えるのではなく、自分の生き方として主体的に考えることです。さらに人間は一人ではなく、共同体の一員として生きています。社会や他者とよりよく関わるために、コミュニケーションを交わし、合意を形成していくための対話も必要です。このプロセスを学ぶのが倫理の学習です。

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 学んだ知識を社会との関わりの中で、自己の人格形成に役立てることができる。	自らの人生観や価値観を適切に表現できると友に、他者との対話を通じて合意を形成していくことができる。	人間社会の抱える問題を広い視野で考え、さまざまな価値観を相対的に捉えて自分の生き方と結びつけて考察することができる。
	B 学んだ内容に関する資料や書籍を自ら探して、主体的に自己の問題として探求できる。	他者の考え方や価値観に耳を傾けて客観的に理解することができる。	学んだ内容を自らの生き方と結びつけて考えることができる
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	定期考査、課題の提出状況	定期考査、授業中の発言内容	授業中の参加態度 課題の提出状況